

令和5年度第1回東大阪市立新博物館整備基本計画審議会 議事録

開催日時	令和5年11月15日(水) 14時00分から16時30分
会場	東大阪市立埋蔵文化財センター 視聴覚室
出席者	審議会委員 大西委員、鈴木委員、中村委員、弘本委員、村上委員
配布資料	・文化財施設再整備基本構想(改定版) ・新博物館整備基本計画策定業務委託プロポーザル提案説明書 ・文化財課刊行の頒布資料

1 開会

委員5名全員出席につき、東大阪市立新博物館整備基本計画審議会規則第5条第2項の規定により審議会は成立することを報告。

2 川口副市長より挨拶

・本市はものづくりのまち、ラグビーのまちとして知名度が高い一方で、旧石器時代以降の史跡が多く存在し、太古より人々の集まる場所、我が国の歴史に密接に関わる場所であった。

・市民の皆様、特に、未来を担う子どもたちが、先人から受け継いできた魅力ある歴史と文化を知り、興味を持ち、まちを愛していただくきっかけになる施設となるよう、文化財保護や、博物館運営、まちづくり、観光、教育など様々な観点で50年、100年と、愛され続ける登録博物館をめざし、基本計画をまとめていく。

・野田市長の掲げるマニフェストの要である「子どもファースト」のもと、「子どもたちが主役となる博物館」として、多くの世代が集い、本市の歴史的な魅力を裏付けるさまざまな文化財展示への子どもたちの好奇心に満ちた目、そしてそれを見守る大人たちの笑顔こそが目玉となるような博物館をめざしていきたいと考えている。

・委員の皆様におかれましては、「子どもファースト」の視点で、全国から注目を集めるすばらしい博物館となるよう、それぞれのご専門の観点から、ご助言を賜りたい。

3 案件

(1) 会長の選出

東大阪市立新博物館整備基本計画審議会規則第4条に基づき、会長は互選。

事務局の提案により、会長に鈴木喜博委員を推挙、了承された。

以降、議事は東大阪市立新博物館整備基本計画審議会規則第5条の規定により会長が進行。

(2) 新博物館整備基本計画策定業務について(報告)

・事務局よりこれまでの検討経緯と文化財施設再整備基本構想(改定版)について説明。

《事務局》

・本市では施設の老朽化などを背景に、平成30年には文化財施設再整備基本構想及び東大阪市図書館基本構想をもとに、文化複合施設整備基本計画を策定。その後、コロナ禍での計画凍

結を経て、令和4年、現・埋蔵文化財センターの立地に文化財施設を再生することになり、令和5年4月の改正博物館法の趣旨を踏まえ、新たに基本構想の改定を行った。今回の基本計画はその経緯を引き継ぐものとなる。

基本構想に定めた新博物館の5つの方向性が以下の通り。

- ①「守り・受け継ぐ」②「分かち合う」③「育む」④「つながる」⑤「営む」

また、新博物館整備の重点的な視点として3つの視点を掲げる。

- ① 埋蔵文化財センターで長く親しまれてきた体験学習を更に発展させ、文化財への親しみが深まる拠点としていく。
- ② 従来の収蔵環境は、次世代の継承に課題があるため、新博物館に伴う収蔵庫を中心に、市内に点在する収蔵環境についても改善・再編整理を行う。
- ③ 建設予定地の埋蔵文化財センターも立地を生かし、観光やまちづくり、魅力発信の拠点としての取り組みも進めていく。

さらに、今回基本構想の改定において最も重視した点が、「子どもファースト」の視点。

主要なターゲットとして「子ども」を明確に打ち出し、以下の基本理念を定めた。

- ① My First Museum 子どもたちが初めて出会う博物館となり、その後の学びに寄り添う場。
- ② My Favorite Museum 子どもたちがさまざまな体験を通じて知的好奇心を育み、それぞれにとってお気に入りとなるような博物館をめざす。
- ③ My Field Museum まち全体を博物館の展示室と見立てたフィールドミュージアムをめざす。新博物館は本市の成り立ちや特徴を知るガイダンス施設として、デジタル活用やボランティアのまち歩きガイドと連携して、マイフィールドミュージアムの付加価値を高めていく。

・提案内容書について

基本計画策定事業者のトータルメディア開発研究所より、提案内容および基本計画での検討内容を説明。

(3) その他

・事務局より東大阪市刊行の文化財頒布資料等について説明。

《会長》

展示資料（所蔵資料）の目玉としては、どのようなものを考えているのか。

博物館は所蔵品が何点あるかが一つのブランドとなるので、市として所有している所蔵品の内訳（考古・民俗・美術工芸・文書）や割合、主な所蔵品リストは次回用意してほしい。

《事務局》

展示候補資料は実際に埋蔵文化財センター・郷土博物館を見ていきながら説明。併せて後日、

所蔵資料の情報は用意する。

・事務局より埋蔵文化財センター・中館の取り扱いについて報告。

・本日の総括。

《会長》

各委員の皆様から一言ずつお願いします。

《委員》

・現在ガイドボランティアの育成や観光マップの制作を行っているが、観光の目線からしても「東大阪まるごと博物館」という考え方は素晴らしい。

・また、「子どもがターゲット」という市長の思いがあるが、子どもが分かる内容は大人にも分かりやすいので、ガイドや解説するうえでも大事な視点。

・現在の埋蔵文化財センターには子どもが自由に体験できるものがたくさんあり、指導するボランティアもたくさんいた。文化財に直接触れる施設は他に無く休館は寂しい。新博物館に期待している。

・現在の郷土博物館は交通は不便だが、素晴らしい古墳たちに囲まれている。

生駒山のハイキングコースにあるので、所蔵品と合わせてハイカーの休憩場所など沢山の方が訪れる魅力ある施設に転換してほしい。

・これを機会に収蔵できない文化財や各地域にある文化財も、「東大阪まるごと博物館」という考え方で解説が見られるQRコードや多言語の案内など整備してもらいたい。

《委員》

・(自身が館長を務める)紀伊風土記の丘でも、新たな和歌山県立考古民俗博物館を立ち上げるため、現在実施設計を進めているが、コンセプトとして、東大阪市と同様に「子どもファースト」や「観光資源としての博物館」としての視点を重視している。

・残念ながら、日本には国立・県立クラスの博物館にも、キッズミュージアムはほとんど無く、専門家向けの博物館が多い。

・キッズミュージアムは、韓国に先行事例が多い。国立博物館、ソウル中央博物館、慶州・金海・済州島の博物館などに子ども博物館があり、地域の簡単な紹介や、遊びから学習へ方向付けしていくような子ども目線での展示展開をしている。

・今後、紀伊風土記の丘では展示室一室を子ども向けの展示として活用していく予定。簡単な土器をくっつける体験や古代衣装の着用体験などのほか、古墳はどのようなものなのか？和歌山の産業はどのようなものなのか？を含めて解説するように検討している。

・特に子ども向けの空間では遊び感覚と関心を持ってもらうことを重視。小学校の上級生や中学生になったときに他の展示室にも見に来てもらい、徐々に勉強・学問的な関心を高めてもらえればと考えている。

・博物館は観光資源でもあるので、人が寄ってもらわないと困る、寄ってもらうにはどうし

たらいいかということを見ると、子どもが来れば保護者も来る。保護者に関心を持ってもらうことで、リピーターを増やしていくことも狙いになる。

・東大阪の新博物館でも、キッズミュージアム、要するに、子どもたちのための娯楽と歴史の融合の場所をつくってほしい。「子どもファースト」として子どもたちの関心を引き起こすための博物館になってもらい、観光資源としても成功することをめざした構想・計画となることを期待している。

《委員》

・何を展示の目玉にするのか、作り込み方が重要。工事段階などから多くの市民が目玉づくりに参加できる仕組みをつくり、オープン後も運営の支え手になっていくプロセスをつくるというのも必要。

・（自身が開設や運営に関わった）大阪市立住まいのミュージアム・くらしの今昔館の目玉は、当時の工法で再現した江戸時代の大阪のまち並み。今はない本物の和の住環境を体験できるので、大阪市内のほとんどの小学3、4年生が訪れる関係づくりのほか、新型コロナ禍前には着物を着て歩けるサービスで外国人観光客の誘致にも成功していた。

・また、今昔館の展示には、近代大阪の暮らしを精巧に表現した模型ジオラマがありそれも非常に人気。東大阪もモノづくりのノウハウがたくさんあるまちなので生かしてほしい。

・「子どもファースト」は、素晴らしいコンセプト。子どもたちが東大阪に愛着を持ってまちの歴史を理解してというのが、自然に身に着いている状態が作れるのが良い。

・いまは共働き世帯が多く、家庭でのケアや経済面で格差が生じやすくなっているが、そのために子どもたちに分断や排除が生じるのはあってはならない。東大阪は人権尊重に力を入れているまちでもあるので、博物館でも「子どもファースト」というものを多様な目線でとらえ、人権やマイノリティに対しての配慮も、東大阪市の個性・アイデンティティとして大事にしてほしい。

《委員》

・長年にわたり縄手小学校では、埋蔵文化財センターで毎年2月にモノづくり体験として、地域の方と火起こしや勾玉づくりなどを体験させていただいていた。

・郷土博物館も小学校3年生で見学に行く。綿繰り機で綿づくり体験を行い、4年生での大和川の付け替えて綿の産業が発展したという地域の学習につなげていた。

・どちらも身近な学習の場、休日に気軽に子どもたちで訪れられる場でもあったが、コロナ以後はモノづくり体験も中止、新型コロナ禍明けに訪問する機会がないまま施設も休館になってしまったのが現状。

・地域自体もコロナ以後変化している。近年、縄手小学校の校区にもネパール・スリランカ・中国・ベトナム・アメリカ・韓国と、外国籍の方が増えている。通学する子どもたち同士の交流はもちろん、外国の方を迎えて話をさせていただく機会を小学校としてもつづけている。

・これまでの埋蔵文化財センター・郷土博物館に代わる新たな施設として、今の子どもを目

線や地域の目線での意見を出していきたい。

《会長》

- ・ぜひ総花的になりすぎず東大阪市に特化したものを選択して検討を進めていってほしい。
- ・過去の基本構想と現状の提案内容では矛盾・変化していることもあるので調整が必要。構想段階でまとめた博物館で伝えるべき東大阪市の歴史というのは大人目線であったので、「子どもファースト」を目玉にするならば、子ども向けに東大阪の歴史の概説書をつくっていく必要がある。
- ・東大阪市の歴史をまちの誇りとする。そのための指針を1年間でつくるのは至難の業だと思うので、開館まではまだ先だが、しっかり土台となる展示構想を検討いただきたい。

《事務局》

- ・今後、審議会でもいただいた意見を、事務局・委託業者・ワーキングチームで検討しまとめていく。
- ・ボランティアは今後の展開のポイント。「子どもファースト」の視点はもちろんだが、博物館に関わることで住んでいる大人にとっても集まりたい・学びたい・あってよかったと思ってもらえる施設にしたい。観光協会のボランティア育成の方法も学ばせていただきたい。
- ・国内でも数少ない取り組みということで、市立の博物館でのキッズミュージアムという考え方の先鞭がつけられることをめざしていきたい。特に、子どもが来れば保護者がついてくる。公的な施設としてまずは多くの方に利用していただけないと、その施設の魅力・作った意味が発揮できないので、リピーターを増やす、関心を高めるという視点を意識しながら中身を検討していきたい。
- ・くらしの今昔館の例は、インバウンドの取入れという面でも興味深く、鴻池新田会所の活用にも参考にさせていただきたい。
- ・現在施設が休館してしまい申し訳ない。代わりとなる体験イベントも実施している。ぜひご参加いただきご意見いただいて、新たな施設の体験メニューの充実にもつなげさせていただきたい。
- ・事業者の提案については公募型プロポーザルとして理想となる提案をしていただいている。今後のワーキングの中で、ずれが無いよう広げすぎずにまとめていきたい。大人目線の構想、前回の基本構想とあまり変わっていないというご指摘も、改定ということで以前の内容を多く残した状態となっている。その反省も踏まえながら、基本構想（改定版）で定めた基本理念・コンセプトを基に計画をすすめていきたい。

4 埋蔵文化財センター郷土博物館の現地見学

5 閉会